

子どももの森 家族で再生

カシノナガキイムシによる「ナラ枯れ」やシカの食害で荒廃した森を再生しようと、京都市左京区の宝が池公園内にある子どももの楽園「奥のプレイパークゾーン」で、市民ぐるみの活動が行われている。3月には山裾の約10畝四方をシカ除けのネットで囲む作業があり、参加した親子11組が汗を流した。



下草がなくなり、荒れてしまった森の再生を目指して活動する「けむんばアドベンチャー」の参加者たち（京都市左京区）

宝が池公園では、2010年ころからコナラやアヤマキなどにナラ枯れの被害が広がった。枯死した木の伐採が追いつかず、放置されたままの木もある。さらに11年ころからはシカの食害も目立ってきた。プレイパークに隣接する雑木林では、シカ

が葉を食べ、樹皮を剥いだため立ち枯れてしまった木が目立つ。下草もほぼ食べ尽くされ、土壌がむき出しになっている。

子どもたちが生きた自然に親しめるはずのプレイパークの森が荒れ、逆に危険になってしまったため、子どもたちだけで立ち入らないよう指導するようになった。

こうした森の荒廃に、プレイパークを運営する市都市緑化協会職員らが危機感を抱き、昨年5月に親子で自然遊びを楽しむながら森林整備にも取り組む催し「けむんばアドベンチャー」を開始した。年数回の活動を通して、土の流出を防ぐための擁壁「土留め」づくり作業などに取り組んでいる。

今年3月のけむんばの活動では、シカが入れない保全エリアを設けて下草を復活させ、樹木を育てるプログラムを実施。エリアを決めてくいを打った後、ネットを張り巡らせた。親子3人で参加した右京区の会社員小山正宣さん（38）は「参加して初めて現状を知った。子どもたちがここで遊び森と親しめるように、できることを続けたい」と話している。

「けむんばアドベンチャー」は5月にも活動予定。市都市緑化協会 ☎075（781）3010。

（太田敦子）

遊びと整備両輪 活動続く